

動労水戸

国鉄水戸動力車労働組合

水戸市三の丸三・一・三
 発行責任者 石井真一 編集者 西納岳史
 電話 029・227・6020
 FAX 029・227・6291

茨城労組交流センター総会かちとる

10・1検修・構内外注化阻止を掲げ、8月24日、動労水戸は第一波のストライキを打ち抜いた。早朝から勝田車両センター、勝田駅、大子運輸科、土浦駅での街宣活動が支援の仲間とともに取り組まれ、仕事に向かう多くの労働者に動労水戸の闘いを大々的に宣伝した。この日は動労水戸への組合差別裁判の第4回公判が行われ、ストに入った当該組合員とともに、多数の組合員とその家族、支援の仲間が法廷を埋め尽くした。裁判では、「会社側が出せないという資料については、もう出ないものという前提で裁判を進めてはどうか」という裁判長の露骨な会社側への肩入れに対し、傍聴に駆けつけた仲間は怒りの声を上げ、裁判長の強権的な態度にひるむことなく裁判を闘った。



勝田車両センター前で街宣

8月28日指名ストで強制出向着し止め訴訟提訴へ

裁判後の外注化阻止に向けての総決起集会では、石井委員長の基調提起を受け、動労千葉と福島・栃木の労働者が連帯発言に立った。被曝労働阻止の大字ストに全国の労働者が共感し、熱い注目を送っている。外注化阻止に向けて、教育訓練・出向の意思確認・設備工事などを巡って、他労組も巻き込んだ職場闘争を闘い、この闘いの中で国鉄分割民営化以来のリベンジを果たす、その中で必ずや組織拡大を実現するという決意がみなぎる集会となった。同時に、勝利の



JR水戸支社に向け抗議行動

ための真剣な討論と組織強化が必要であること、「組合加入の壁」を何としても打ち破る闘いを進めることが提起され、参加者一同、決戦に向けて改めて気持ちを引き締める場となった。集会ののち、JR水戸支社前

での抗議行動を行った。この日は会社と東労組の団交の日だ。職場の労働者を裏切り、外注化に率先協力する東労組幹部に対し、堂々と怒りの声を叩きつけた。

新たな仲間迎え茨城労組交流センター総会開催

翌8月25日、土浦市において第21回茨城県労働組合交流センター定期総会が開催された。一年間の闘いを総括し、大恐慌の時代に闘う労働運動を復権することを目指して闘っていくことが確認された。動労水戸と共闘する労働組合としての旗を守り抜いてきた常南交通労組、共立製薬労組、茨城県地域連帯労組に加え、新たに県西合同労組が組織加盟し、JR外注化阻止と反原発闘争を闘い抜くことを全体のスローガンとして総会を成功裏に勝ち取った。

8・28東京地裁へ強制出向差し止めを提訴

8月28日、動労総連合は10・1JR外注化に伴う強制出向の差し止めを求める提訴を東京地裁に行う。当日は当該労働者

がストに入つての集団提訴行動を打ち抜く。外注化によって実際には出向の後にJR本体には戻れる場所などないにもかかわらず、会社も東労組・国労本部もその点をとことんあいまいにしている。今回の提訴は、同時に外注化を阻止し鉄道の安全を守るという労働組合としての社会的責務を全社会に宣言する裁判として闘われる。「片道切符」の強制出向阻止！安全の崩壊を許すな！裁判闘争と一体で職場で立ち上がり、勝利を切り開こう！



交流センター総会で団結ガンバロー